

崇城大がサンフランシスコに「学生起業家」の教育拠点

米国企業と提携し毎年2～3件のベンチャー創出を目指す

崇城大(熊本市、中山峰男学長)はこのほど、米国・サンフランシスコ市に、学生起業家教育の海外拠点となる「崇城大学サンフランシスコオフィス」を開設した。同市に本社を置くブランドコンサルティングサービス会社・btrax(ビートラックス、ブランドン・K・ヒルCEO)との提携によるもので、独自のイノベーション育成プログラムを持つ同社の支援を受けながら、今後、学生起業家の輩出を加速させる考え。

同大は熊本工業大を前身とする理系大学で、薬学部、生物生命学部、工学部、情報学部、芸術学部の5学部と、工学研究科、芸術学研究科、薬学研究科の大学院からなる。昨年度、全学部の学生を対象とする講義科目にベンチャー起業論を加え、10月には部活動として全国初の起業部(Sojo Ventures)を創設するなど、独自の起業家育成プログラムを展開している。

今年1月、工学部建築学科4年で起業部主将の加曾利亮地氏のプラン「南米コロンビアでのカレーチェーン展開事業」は、熊本県と県起業家支援センターが主催した「学生発ベンチャー・夢挑戦ビジネス大賞」で大賞を受賞、ベンチャーキャピタルなどが審査員を務めた学内のビジネスプランコンテストでも優勝した。現在は、コロンビアで移動店舗による販売(写真)に取り組んでおり、来年、店舗展開を開始する計画だ。学内では、ベンチャー起業論を受講する学生が400人に上り、起業部には20数人が所属。11月に女子学生が起業する計画も進んでいる。また来年は2億円程度ファンドを設立する方向だという。

同プログラムを担当する総合教育センターの熊野正樹准教授は「今回の提携で、ビートラックスから3人の担当を付けてもらう。本学でも起業家育成を支援する 起業のための実務を具体的に指導しており、その相乗効果で、学生ベンチャーを年に2～3社出していきたい」と話している。

